

まちづくり塾 「協力のダイナミズム」

日時：12月17日（木）19時～21時
場 所：北区役所402・403会議室
参加者：27名（20団体）

これからの地域活動で

「協力・協働」が必要な訳

「協力のダイナミズム」。協力することによって生まれるパワー、活力。「強み」と「強み」が繋がれば、新しいアイデアが生まれ、活動の幅が広がります。
ではなぜ、「協働・協力」をしなければならぬのでしょうか？

その答えは、10年後20年後を考えると、判ります。団塊の世代が後期高齢者になる10年後、子どもの数、生産年齢人口の数が今よりも少なくなる10年後。北区の課題に向き合うためには、今まで以上に協力し合うことが大切です。

今回は、体を動かしながら協力することの難しさや大切さを体験し、たくさんの方の工夫やアイデアから未来の北区をイメージする、とても貴重な時間を参加者の皆さんと共有しました。



あっといふ間に仲良くなれる

トランプの意外な使い方！

今回のアイスブレイクで使用したのは、どこにもあるトランプ。

参加者が、トランプを一枚ずつ引き、そのカードを見ずに自分の額に当てる。自分のカードは見えないけれど、みんなのカードは見える状態です。

「今から、マークの色や数字を口にせず、コミュニケーションだけで、同じマークの人数同士で集まり、さらに番号順に並んでください」
進行者の合図を皮切りに「あなたとあなたは同じマークやで」「あなたの隣はあなたや」と参加者がグループに分かれていきます。あらあら、気が付けば、キレイに並んでいました。

皆で協力すると、自分が何のカードを持っているか分からなくても、ちゃんと自分の場所に辿り着けます。協力すること、みんなの距離が、いっきに縮まりました！



レッツ チャレンジ！

はじめてのインプゲーム！

「インプは「存知ですか？」の問いに、「はい」と手が挙がったのはちらほら。」

インプとは、もともとは俳優のトレーニングとして考案された即興演劇のことです。インプゲームはこういった要素を取り入れた、伝える、受け取る、共有するといったヒントがちりばめられている「コミュニケーションゲーム」のことです。最近では企業の研修などにも取り入れられるなど、一般の人を対象にしたものが増えてきて注目されているのです。

みんなが知ってる桃太郎

ところがところが・・・

「桃太郎」の話を覚えていますよね？

その「桃太郎」の話を7、8名のグループに分かれ、1人がひと言葉だけ「昔々」「あるところ」「おじいさん」と「なごご発言し、それぞれの「ひと言」を繋げて話を完成させます。

簡単なようで意外と難しい。自分がイメージしている言葉を隣の人が言ってくれるとは限りません。少しの言葉の違いで進む方向も変わります。「あれ？そうなるの？それじゃあ・・・」「と必死に次の言葉を考えます。なんとか皆さん「めでたし、めでたしー！」

知っているはずなのに、その過程やイメージ、感じ方は人それぞれ。少しずつ違う。そんなことを感じていただけたのではないのでしょうか。協力するためには、この感覚の違いを知っておくことが、とっても大切なのです！

インプロの考え方には、「YES AND」というものがあります。相手の発言や行動、相手の存在そのものを「YES」と受け入れて、AND・・・と自分のアイデアを融合させる。ダイバーシティ（多様性）にも配慮した関わり方です。「相手の立場・視点に立ったコミュニケーションを考えること」「自由に発想・表現すること」「そこに至るまでの過程でも、身体と思考にさまざまな刺激を与え多くを得ることが出来るゲームです。」



数字から読み解く北区の

現在・過去・未来

少子高齢化、高齢化率は？年金は？

なんだか今後大変なことになるんじゃないかな・・・なんとなくわかっているけれど、まだまだ実感しきれない。

そこで、人口統計や高齢化率予想など地域の色々な統計資料をまちセンで一部分析したものを解説し、見ていきました。

数字は語ります。今後このままの出生率では、人口そのものが減少。若い世代だけが減り、なんと20年後には、大阪市北区の人口で予測すると、若者3人で高齢者1人を支える騎馬戦型になります。高齢者をどのように支えていくかだけではない大きな課題をいくつも含んでいることに気づきます。

また、単独世帯が多いことは北区の特徴のひとつです。年齢別にみると20代30代がもっとも多くなっています。勉強や仕事を中心とした若い世帯は流入出が多く、地域の活力としてどのように巻き込んでいくのかは課題のひとつです。

外国人世帯、1人親世帯のサポートについての問題など、新しい課題も増え、多種多様、複雑化しているのが現状です。

～新しい地域課題～

- ・日本語が不自由な外国人への支援
- ・母子世帯、父子世帯へのサポート
- ・若年者への就労支援
- ・定年退職後の仕事・生きがい探しサポート
- ・買い物難民・入浴難民へのアプローチ
- ・マンション住民・単身世帯への関わりの模索
- ・その他

どうなる？北区 どうする？北区

グラフや表を見ながら、北区の10年後20年後をイメージしていただいた後、4つのグループに分かれ、それぞれに感じられたことを話し合っていたいただきました。

現状について、これからについて。身近に感じていることをきっかけに、話ほとんど繋がっていききました。5分を予定していたグループワークは延長して15分に。時間いっぱいでも話はまだまだつきないといった雰囲気の中、第3話を終了しました。

～各グループの北区についての議論内容（一部抜粋）～

「高齢者・子育て世代」

- ・健康寿命の延長により高齢化の問題
- ・生きがい、自分の役割を見つけることが課題
- ・核家族の今、子どもには頼らない、迷惑をかけたくないと思う人が多い。
- ・今の子育て世代は、仕事を中心に社会、家族を振り返れないのではないのか？
- ・地域の活動への参加は、入り方がわからないのではないのか？
- ・短期間でも参加してくれるしくみを考えると良い。

「ボランティア」

- ・地域が10年後も今と同じ状態で維持できているのか？次世代の担い手をつくる事が大事。
- ・ボランティアでも、楽しい面白いなどなにかメリットが必要。
- ・新しい住民にとっては、地域の既存の仕組みや組織は敷居が高く感じる。なかなか認めてもらえず、新たに自分達のスタイルを造る方が早いと考えてしまう。

「地域とマンション住民」

- ・新しいマンションは町会に入らない。管理組合として意思決定されることが多い。
- ・マンション住民とのコミュニケーションは、地域から話を持ちかけると、町会に入っていないマンション住民も活動に参加しやすいのではないのか。
- ・マンションが増え、若者層は増えてきているが、連携ができていないように感じる。
- ・みんなが住みたい地域になるように話し合う事が大切。

「高齢者・若者」

- ・75歳以上を高齢者といってもまだまだ若く元気。世話をされる側ではなくて、世話をする立場。特に女性が元気。
- ・どちらかと言うと、若い人の方が疲れているように感じる。
- ・働いていない若者、独り立ちできていない若者、結婚しない若者が増え、さらに、年金制度は今後どんどん厳しくなっていくので、高齢者のことよりも今の若者の老後の方が心配。

次回まちづくり塾第4話
 平成28年1月14日(木)
 「共感のファンディング」
 19時～21時
 北区役所 402・403会議室
 第4話終了後懇親会
 平成28年1月14日
 21時30分～
 九州魂 KUSUDAMA
 天神橋店
 参加費 3000円
 ご参加お待ちしております。



お問合せ

北区まちづくりセンター 大阪市北区扇町2-1-27 北区役所3F

TEL: 06-6809-1080 FAX: 06-6809-1081

E-mail kitamachisen@dream.ocn.ne.jp HP <http://kitamachisen.jimdo.com/>

